平成24年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年８月12日

上場会社名	そーせいグループ株式会社		上場取引所　東
コード番号	4565		ＵＲＬ　http://www.sosei.com/
代表者　（役職名）	代表執行役社長（兼取締役）ＣＥＯ	（氏名）田村　眞一	
問合せ先責任者　（役職名）	執行役副社長	（氏名）虎見　英俊	ＴＥＬ 03-5210-3290
四半期報告書提出予定日	平成23年８月12日	配当支払開始予定日	―

四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．平成24年３月期第１四半期の連結業績（平成23年４月１日～平成23年６月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年３月期第１四半期	238	△65.3	△526	―	△530	―	△531	―
23年３月期第１四半期	689	△6.1	60	768.2	8	△97.1	10	△96.2

（注）　包括利益　24年３月期第１四半期　△510百万円　（－%）　23年３月期第１四半期　68百万円　（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
24年３月期第１四半期	△4,492　95	―　―
23年３月期第１四半期	88　88	88　64

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年３月期第１四半期	8,525	8,148	92.6
23年３月期	8,991	8,656	93.7

（参考）自己資本　24年３月期第１四半期　7,895百万円　23年３月期　8,429百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
23年３月期	―　―	0　00	―　―	0　00	0　00
24年３月期	―　―				
24年３月期（予想）		0　00	―　―	0　00	0　00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成24年３月期の連結業績予想（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（%表示は、通期は対前期、第２四半期（累計）は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
第２四半期（累計）	395	△44.4	△1,210	―	△1,210	―	△1,210	―	△10,224　94
通期	1,780	105.1	△1,470	―	△1,470	―	△1,470	―	△12,422　04

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

４．その他

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年３月期１Ｑ	118,338株	23年３月期	118,338株
②　期末自己株式数	24年３月期１Ｑ	－株	23年３月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	24年３月期１Ｑ	118,338株	23年３月期１Ｑ	117,913株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 5
４．四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）セグメント情報等 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
（６）重要な後発事象 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、日本及び英国の子会社（日本：株式会社そーせい、株式会社アクティバスファーマ、英国：Sosei R&D Ltd.）を中心にグローバルに医薬品の研究開発事業を展開しております。

主な収益源は、開発の進展に応じて導出・販売提携先より当社グループに支払われるマイルストン収入並びに医薬品の販売による収入等であります。また主な費用として、研究開発費並びにのれんの償却費が発生しております。

当第１四半期連結累計期間における経営成績は以下のとおりであります。

① 売上高

当社グループは当第１四半期連結累計期間において、238百万円（前年同四半期689百万円）の売上を計上しました。主な内容は、あすか製薬株式会社からのノルレボ®錠 0.75mg（緊急避妊薬）国内販売開始に伴うマイルストン収入、国内における同社への販売収入及びオーストラリアにおけるサンド社（Sandoz Pty Ltd.、オーストラリア）への販売収入であります。前年同四半期連結累計期間との差異の主な要因は、前年同四半期に発生したＱＶＡ１４９の第Ⅲ相臨床試験開始に伴うマイルストン収入によるものであります。

② 営業損益

当第１四半期連結累計期間は、526百万円の営業損失となりました（前年同四半期は営業利益60百万円）。販売費及び一般管理費の合計は663百万円（前年同四半期比11.0%増）となりました。その内訳は、研究開発費53百万円（前年同四半期比0.4%増）、のれん償却額397百万円（前年同四半期比増減なし）、その他の販売費及び一般管理費212百万円（前年同四半期比44.6%増）となっております。販売費及び一般管理費の前年同四半期との差異の主な要因は、当第１四半期連結累計期間は株式会社アクティバスファーマが連結子会社となっているためであります。また、営業損益の前年同四半期連結累計期間との差異の主な要因は、上記①に記載のとおりであります。

③ 経常損益

当第１四半期連結累計期間は530百万円の経常損失となりました（前年同四半期は経常利益8百万円）。前年同四半期連結累計期間との差異の要因は、上記①に記載のとおりであります。

④ 四半期純損益

当第１四半期連結累計期間は、531百万円の四半期純損失となりました（前年同四半期は四半期純利益10百万円）。前年同四半期連結累計期間との差異の要因は、上記①に記載のとおりであります。

⑤ セグメントの業績

セグメントの業績については、次のとおりであります。

ａ．国内医薬事業

国内医薬事業におきましては、売上高は238百万円（前年同四半期33百万円）となりました。主な内容は、あすか製薬株式会社からのノルレボ®錠 0.75mgの国内販売開始に伴うマイルストン収入、国内における同社への販売収入及びオーストラリアにおけるサンド社への販売収入であります。セグメント利益は40百万円（前年同四半期はセグメント損失66百万円）となりました。前年同四半期連結累計期間との差異の主な要因は、当四半期連結累計期間に発生した、あすか製薬株式会社からのノルレボ®錠 0.75mg国内販売開始に伴うマイルストン収入及び国内における同社への販売収入によるものであります。

ｂ．海外医薬事業

海外医薬事業におきましては、売上高は発生せず（前年同四半期655百万円）、セグメント損失は422百万円（前年同四半期はセグメント利益233百万円）となりました。前年同四半期連結累計期間との差異の主な要因は、前年同四半期に発生したＱＶＡ１４９の第Ⅲ相臨床試験開始に伴うマイルストン収入によるものです。なお、海外医薬事業における営業費用には、のれん償却額397百万円が含まれております。

⑥ 研究開発活動

当第１四半期連結累計期間における研究開発活動は、ノルレボ®錠 0.75mgの販売開始、ＮＶＡ２３７の第Ⅲ相臨床試験の２本のピボタル試験の終了、ＳＯ－１１０５（口腔カンジダ症）など新たな開発品の導入等について開発進捗を図ったことであります。なお、研究開発費は53百万円（前年同四半期比0.4%増）となりました。各開発品等の進捗に関するセグメント別の詳細は以下のとおりであります。

ａ．国内医薬事業

■ノルレボ®錠 0.75mg（適応：緊急避妊）

開発段階：販売開始（平成23年６月30日現在）

ノルレボ®錠 0.75mgにつき、平成23年５月24日に国内における販売を開始いたしました。本製品は平成21年11月に締結済みの国内販売権導出契約に基づき、あすか製薬株式会社を通じて販売しております。

■ＳＯ－１１０５（適応：口腔カンジダ症）

開発段階：臨床試験準備中（平成23年６月30日現在）

本年５月にＳＯ－１１０５をビオアリヤンス社（BioAlliance Pharma、フランス）より本製品の日本における独占開発販売権を取得いたしました。ＳＯ－１１０５は免疫機能の低下した患者等に発症する口腔カンジダ症を治療する口腔粘膜付着性の抗真菌剤です。口腔カンジダ症とは、真菌に属する主として*Candida albicans*（カンジダ・アルビカンス）の感染により引き起こされる口腔内の粘膜炎症性疾患です。ＨＩＶ感染等による免疫不全患者や糖尿病のような慢性的な疾病を患っている患者の間で多く見られます。同剤は、ビオアリヤンス社が開発し、平成18年10月にフランスで初めて承認を取得して以来、現在までに欧州の26カ国、米国や韓国において承認されております。

ＳＯ－１１０５の導出により、開発品パイプラインが一層強化されました。引き続き欧米市場からの発売済み、或いは開発後期段階にある医薬品の導入を通じた事業展開を進めてまいります。

■ＡＰＮＴ（Activus Pure Nano-particle Technology）：ナノ粉砕化技術

当社グループは、創薬基盤技術の強化を図るため、平成22年８月に株式会社アクティバスファーマを買収し、同社のナノ粉砕化技術を取得いたしました。ＡＰＮＴの特徴は、難溶性の医薬品原料を50-300nm（ナノメートル）レベルの結晶粒子径に粉砕しつつ、既存技術で問題となっている夾雑物（きょうざつぶつ）の混入を極めて低く抑えることが可能という点にあります。この特徴により、これまで開発が困難であった難溶性薬物の注射、点眼、吸入製剤への応用を検討しております。具体的には、５月12日に、医薬品の製造販売に多くの実績とノウハウを持つ東亜薬品株式会社及び同社の子会社である日東メディック株式会社と、同社保有の複数の点眼剤等を対象にＡＰＮＴを用いた共同研究を進めることに合意し、基本契約を締結いたしました。今後、それぞれの製品の開発に合意した場合は、事業化に関する個別契約を締結いたします。

また、ＡＰＮＴを応用した効率的な眼疾患治療のための医薬品開発を目指すべく、６月20日に岐阜薬科大学との共同研究契約を締結いたしました。本契約により、岐阜薬科大学と共同で、製剤設計のための基礎的な検証試験を実施し、ナノ粒子結晶を用いた最適剤型の探索を行ないます。また、基礎検討で良好な結果が得られた場合、当該製剤を用いた病態モデルでの実証試験及び臨床応用に向けた各種検討を行なう予定であります。

ｂ．海外医薬事業

■ＮＶＡ２３７（適応：慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ））

開発段階：第Ⅲ相臨床試験中（平成23年６月30日現在）

当社グループが大手製薬会社であるノバルティス社（Novartis International Pharmaceutical Ltd.、本社スイス）に導出しているＮＶＡ２３７は第Ⅲ相臨床試験の２つのピボタル試験、ＧＬＯＷ１及びＧＬＯＷ２が当第１四半期連結累計期間において良好な結果で終了いたしました。

ＧＬＯＷ１試験においては、ＮＶＡ２３７は１日１回投与により主要評価項目を達成し、12週目の肺機能の改善結果がプラセボに対して有意であることが示されました。また、安全性も確認されました。

本試験の詳細なデータにつきましては、ノバルティス社は本年９月にアムステルダムで開催される欧州呼吸器学会（ERS: European Respiratory Society）において発表する予定であります。

ＧＬＯＷ２試験においては、ＮＶＡ２３７は12週時で24時間の肺機能改善効果がプラセボに対して有意であることと、同種薬のチオトロピウムと同等の有効性を示すことが明らかになりました。また、ＮＶＡ２３７の良好な忍容性が中等症から重症のＣＯＰＤ患者において確認されました。本試験のデータは、ノバルティス社が平成23年末までに予定している承認申請データの一部として使用されます。なお、同社はＮＶＡ２３７の上市を平成24年に予定していると発表しております。

■ＱＶＡ１４９（適応：慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ））

開発段階：第Ⅲ相臨床試験中（平成23年６月30日現在）

ＮＶＡ２３７とノバルティス社が独自で開発しましたインダカテロール（欧州、日本、米国を含む50ヵ国以上で承認）との固定用量配合剤であるＱＶＡ１４９につきましては、現在5,500名のＣＯＰＤ患者を対象に６本の第Ⅲ相臨床試験が実施されております。ノバルティス社はＱＶＡ１４９の最初の上市を平成25年に予定していると発表しております。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第１四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ466百万円減少し8,525百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ307百万円減少し1,566百万円となりました。主な減少要因は、ビオアリヤンス社へ、ＳＯ－１１０５の販売に係るライセンスの対価として、242百万円を支払った事によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ158百万円減少し6,959百万円となりました。主な減少要因は、Sosei R&D Ltd.買収に伴い発生したのれんの償却費が397百万円発生したことであります。なお、当第１四半期連結会計期間末ののれんの残高は6,617百万円であります。

現金及び預金の合計額は、前連結会計年度末と比べて306百万円減少し1,445百万円となりました。当社グループの手許流動性は、当第１四半期連結会計期間末では現金及び３ヶ月以内に現金化が可能な定期預金によるもので、コミットメントライン契約などはありません。なお、流動資産の総資産に占める比率は18.4%、現金及び預金の流動資産に占める比率は92.3%であります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ41百万円増加し377百万円となりました。株主資本は前連結会計年度末に比べ554百万円減少し6,714百万円となりました。これは主に、四半期純損失計上によるものであります。

以上により、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.1ポイント下降し92.6%となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

■第２四半期連結累計期間（平成23年４月１日～平成23年9月30日）

売上高は、ノルレボ（緊急避妊薬）の国内販売開始に伴うマイルストン、あすか製薬からの販売収入およびサンド社（オーストラリア）からの販売収入があるものと予測いたします。一方、研究開発費は200百万円、その他の販売費及び一般管理費は402百万円、のれん償却額は794百万円と予測いたします。

以上により、業績予想は、売上高395百万円、営業損失1,210百万円、経常損失1,210百万円、当期純損失1,210百万円、営業活動によるキャッシュ・フローは160百万円のマイナスと予測いたします。

■第３四半期及び第４四半期連結会計期間（平成23年10月１日～平成24年３月31日）

売上高は、ノルレボ（緊急避妊薬）の、あすか製薬からの販売収入およびＮＶＡ２３７の承認申請に伴うマイルストン収入があるものと予測いたします。一方、研究開発費は190百万円、その他の販売費及び一般管理費は454百万円、のれん償却額は794百万円と予測いたします。

以上により、業績予想は、売上高1,385百万円、営業損失260百万円、経常損失260百万円、当期純損失260百万円、営業活動によるキャッシュ・フローは560百万円のプラスと予測いたします。

■通期（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

通期の業績予想は、売上高1,780百万円、営業損失1,470百万円、経常損失1,470百万円、当期純損失1,470百万円、営業キャッシュ・フローは400百万円のプラスと予測いたします。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループにおいては、継続的な営業キャッシュ・フローのマイナスが発生していたこと、安定的な収益源を有していないこと、年間約40億円程度の研究開発投資が継続できるほどの資金を有していないこと等により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。当該状況を改善するため、プロダクト・ディスカバリー事業等多額の投資を要する研究開発から撤退し、経営資源を重要な開発品へ優先的に振り向ける等の対応策をとってまいりました。この結果、当社グループの営業キャッシュ・フローは大幅に改善し、今後2年以上の必要資金を保有する状態を維持しております。

また、平成23年５月にノルレボ®錠 0.75mgの国内販売を開始したことに伴い、安定的な収益源を獲得いたしました。更に、ノバルティス社に導出したＮＶＡ２３７及びＱＶＡ１４９の開発進捗に伴い、マイルストン収入やロイヤリティ収入を獲得できる見込みが高まっております。その結果、当社グループの財政状態は経営方針の見直しを開始した平成20年度に比べ大幅に改善しております。よって、当社グループは、当第１四半期連結会計期間末において、前連結会計年度に表明されていた継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況の存在についての懸念が、解消されたものと判断いたします。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成23年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,751,471	1,445,422
売掛金	50	60,036
商品及び製品	62,984	16,002
その他	59,146	44,544
流動資産合計	1,873,653	1,566,006
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	31,321	29,152
機械装置及び運搬具（純額）	15,622	15,500
工具、器具及び備品（純額）	5,949	5,374
有形固定資産合計	52,893	50,027
無形固定資産		
のれん	7,014,102	6,617,077
その他	12,836	254,667
無形固定資産合計	7,026,938	6,871,745
投資その他の資産		
その他	38,302	37,865
投資その他の資産合計	38,302	37,865
固定資産合計	7,118,134	6,959,638
資産合計	8,991,787	8,525,644
負債の部		
流動負債		
買掛金	62,824	106,347
未払金	49,108	66,971
未払費用	201,102	183,525
その他	22,301	20,303
流動負債合計	335,336	377,149
負債合計	335,336	377,149
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,988,055	16,988,055
資本剰余金	18,908,795	18,908,795
利益剰余金	△28,627,728	△29,182,415
株主資本合計	7,269,121	6,714,434
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,160,186	1,181,120
その他の包括利益累計額合計	1,160,186	1,181,120
新株予約権	227,143	252,940
純資産合計	8,656,450	8,148,494
負債純資産合計	8,991,787	8,525,644

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書
（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日）
売上高	689,206	238,949
売上原価	30,706	101,415
売上総利益	658,500	137,534
販売費及び一般管理費	597,991	663,850
営業利益又は営業損失（△）	60,508	△526,316
営業外収益		
受取利息	364	58
その他	20	35
営業外収益合計	384	94
営業外費用		
為替差損	52,761	4,687
営業外費用合計	52,761	4,687
経常利益又は経常損失（△）	8,131	△530,909
特別利益		
新株予約権戻入益	1,752	－
特別利益合計	1,752	－
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,293	－
特別損失合計	1,293	－
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	8,590	△530,909
法人税、住民税及び事業税	△1,889	777
法人税等合計	△1,889	777
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	10,479	△531,686
四半期純利益又は四半期純損失（△）	10,479	△531,686
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	10,479	△531,686
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	58,412	20,934
その他の包括利益合計	58,412	20,934
四半期包括利益	68,892	△510,752
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	68,892	△510,752
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

前第１四半期連結累計期間（自平成22年４月１日 至平成22年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	国内医薬事業（千円）	海外医薬事業（千円）	合計（千円）
売上高			
外部顧客への売上高	33,569	655,637	689,206
計	33,569	655,637	689,206
セグメント利益（△損失）	△66,598	233,649	167,051

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	167,051
全社費用（注）	△117,979
その他調整額	11,436
四半期連結損益計算書の営業利益	60,508

（注）全社費用は、単独では収益を獲得しない持株会社にかかる費用であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産についての重要な減損損失の認識、又はのれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

当第１四半期連結累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	国内医薬事業（千円）	海外医薬事業（千円）	合計（千円）
売上高			
外部顧客への売上高	238,949	－	238,949
計	238,949	－	238,949
セグメント利益（△損失）	40,025	△422,289	△382,264

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額 （千円）
報告セグメント計	△382,264
全社費用（注）	△155,083
その他調整額	11,031
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△526,316

（注）全社費用は、単独では収益を獲得しない持株会社にかかる費用であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産についての重要な減損損失の認識、又はのれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）重要な後発事象

該当事項はありません。